

劇ニシテ、毎戸殆ンド其慘害ヲ蒙ラザルハナク、舉家一人モ餘サズシテ悉ク死亡シタルモノアリ、當時其病ノ何ニ屬スルヲ知ラズ、狼狽其措置ヲ失ス、桂川甫周、大槻玄澤其證候ヲ考ヘ、斷ジテ眞性亞細亞虎列刺ナリトセリ、時ニ長崎出島ノ和蘭製作所長ジャンコック、フロンホツフ、蘭醫ボウイーノ、虎列刺新治法ノ一冊ヲ、我政府ニ捧呈セリ、宇田川榕庵直ニ之ヲ邦語ニ譯述シテ、之ヲ世ニ頒ツ、名ケテ虎列刺沒爾爸斯說ト云、是ニ於テ世間始テ本病ノ治法據ル所アルヲ知ル、

〔橘黃年譜〕^上此病

○暴

今ヲ距ルコト三十七八年前

○文

三日コロリト稱シテ、對州ヨリ京師ノ間

ニ流行スト云、江戸ハ未ダ行ハル、ヲ聞カズ、掛川老侯

○太田順

曰、寛延年間大霍亂ト稱シテ、江戸大

ニ行ハレ、死亡夥ク、官水葬ノ令ヲ下シ、貧窮ノ民皆死體ヲ海中ニ棄ト云、未其出典ヲ詳カニセズ、

醫人亦之ヲ論ズルモノナシ、西洋ニテハ一千八百二十一年

○文政辛巳是歲六月此病浪華尤甚ト云

東印度ニ始リ、四

大洲ニ蔓延スルコト勃微爾ノ書ニ見ユ、明年壬午西船始テ此書ヲ齎シ來リ、宇田川氏之ヲ譯シ

テ以災ニ備フト云、今也文運大ニ關ケ成著陸續出ヅ、先上梓スルモノ母私篤コレヲ病論

○新宮義慎同義

○建大村虎狼痢治準

○緒方洪

疫毒預防說

○杉田玄端

天行病論

○周防長松

霍亂治略

中門人九鬼秀達ヨリ贈ル、今其書名ヲ遺忘ス、最世上ニ早ク傳播スルモノハ松本良順、蘭醫朋百

○甫謨百ト

ニ口授スル處ノ手記トス、其說ニ云、七八月ノ間、治ヲ施スコト凡ソ一千八百餘人、救活

極テ多ト、後長崎ノ商賈江都ニ來リ言、當年流行病朋百ノ療治ニテ一人モ治スルモノナシ、反テ

漢科ノ醫ニテ治タリ、其方多ハ五苓散、生姜瀉心湯ト云、又前橋保岡元吉ノ話ニ、同藩金子誠之助、

長崎留學中此病ニ嬰リ、直ニ治療ヲ在館ノ蘭醫ニ托スルニ効ナクシテ死ス、同學ノ徒大ニ失望

悔恨セリト、夫醫書治術ニ體驗ナケレバ反テ人ヲ害ス、儒可以兼天下、醫可以利濟斯人トハ是ヲ

謂フナリ、